

## 【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	寝屋川市 家庭教育サポートチーム
活動開始年度	平成15年度
活動拠点	寝屋川市立24小学校(30年度より)
活動範囲	寝屋川市内全域
活動財源	<input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(地域における家庭教育支援総合推進事業) <input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(先駆的家庭教育支援推進事業) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名 ) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ( )
組織体制	<u>25</u> 人 家庭教育サポーター 24人 家庭教育アドバイザー 1人
具体的な活動内容	<input type="checkbox"/> 講座型 <input type="checkbox"/> 拠点型 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型 <input type="checkbox"/> 総合型 <input type="checkbox"/> その他( )  全小学校へ配置。担任を始め教職員と連携し、児童の登校状況の把握や不登校傾向を持つ児童の登校支援、保護者の相談活動を行う。 家庭の健全化を通して、子ども、保護者、学校との良好な関係づくりなど、保護者の悩みの軽減により、児童の虐待予防にもつなげている。 平成30年度より夏季休業中に学校の児童生徒支援人材と連携し、小学1年生及び中学1年生全員の家庭訪問を行い、必要な家庭への支援を実施する。
活動の成果	本市の家庭教育サポーターは、学校に配置しているため、児童の登校状況の把握や、家庭訪問などの、登校支援を実施でき、登校状況の改善が図られた。また、児童の背景にある家庭環境をつかみ、学校と連携しながら改善に向けた取り組みを進めている。 家庭教育サポーターが、保護者の話を聴き、思いに寄り添う事により不安や悩みが軽減され、児童や学校との関係も良好になってきた一方で、家庭の抱える問題は多様化しており、家庭の教育支援だけでなく、生活面の支援(福祉的な支援)を図るため、福祉部局との連携を進めている。

<b>活動において苦労した点や課題</b>	登校時の児童への刺激を拒否する保護者との信頼関係の構築に時間を要している。また、学校終業時の見守りに地域の目が必要であること、他機関とのスムーズな連携が課題である。
<b>今後の活動目標</b>	平成30年度より、夏期休業中に小学1年生、中学1年生を持つ全家庭を家庭教育サポーターが訪問し、子ども、学校、地域、生活等の相談にのり、状況に応じた支援を行うことにより、子どもの健やかな成長を目指す。
<b>問合せ先</b>	(部署・氏名等)寝屋川市教育委員会 社会教育部 青少年課 (TEL)072-824-1181 (内線 3073) (E-mail)seishonen@city.neyagawa.osaka.jp